

【5 釈文】 浅間焼け凶作夫食拝借願い（天明3年）

乍レ恐以ニ書付一奉ニ願上一候

一上州我妻郡猿ヶ京村・吹路村・永井村・合瀬村、右四ヶ村  
名主徳左衛門・年寄四郎右衛門奉ニ願上一候、当四月中より  
段々浅間焼ニ而灰砂降り、田畑凶作ニ付、夫食一向

無ニ御座一候、大勢之百姓及レ飢、難義至極ニ奉レ存候

間、何卒御慈悲を以、来辰麦作出来致迄

（隣）

御隣惣ノ上、夫食御拝借奉ニ願上一候、尤是迄

（掘）

葛蔵之根堀、夫食致罷有候得共、最早雪

（精）

深ニ罷成り、情力を尽候得共一向無ニ御座一候、格

（隣）

（姓）

別之御隣惣を以、大勢百姓相助候様奉ニ願上一候、

右願之通り御聞濟被ニ成下一候ハ、莫大之御救与

難レ有仕合奉レ存候、以上

上州我妻郡猿ヶ京村

天明三卯年

十一月

名主 徳左衛門

年寄 弥平

吹路村 組頭 空右衛門

合瀬村 組頭 勘十郎

永井村 組頭 新左衛門

同 年寄 四郎右衛門

原田清右衛門様

御役所

【5 読み下し文】

恐れ乍（なが）ら書付を以（もつ）て願ひ上げ奉（たてまつ）り候

一上州我妻郡猿ヶ京村・吹路村・永井村・合瀬村、右四か村

名主徳左衛門・年寄四郎右衛門願ひ上げ奉り候、当四月中より

段々浅間焼けにて灰砂降り、田畑凶作に付、夫食（ぶじき）一向（いっこう）

御座無く候、大勢の百姓飢えに及び、難義至極（しごく）に存じ奉り候

間、何卒（なにとぞ）御慈悲を以て、来る辰麦作出来（しゅつたい）致す迄

（憐）御隣愍（れんびん）の上、夫食御拝借願ひ上げ奉り候、尤（もつと）も是迄

葛・蕨の根堀り、夫食致し罷（まか）り有り候えども、最早（もはや）雪

深に罷り成り、情力（せいりよく）を尽くし候えども一向御座無く候、格

（憐）別（姓）の御隣愍を以て、大勢百姓（ひやくしやう）相助かり候様願ひ上げ奉り候、

右願ひの通り御聞き済み成し下され候はば、莫大（ばくだい）の御救いと

有り難（がた）き仕合わせに存じ奉り候、以上

（一七八三）

上州我妻郡猿ヶ京村

天明三卯年

名主 徳左衛門

十一月

年寄 弥平

吹路村 組頭 杵右衛門

合瀬村 組頭 勘十郎

永井村 組頭 新左衛門

同 年寄 四郎右衛門

原田清右衛門様

御役所